

## 自分たちの気づきをもとに歌唱表現を高めていく子ども

— 小学2年「めざせ！！わくわく たのしい かえるの合唱 ～斉唱と輪唱～」の実践から —

### 1 授業の構想

#### (1) 子どものとらえについて

歌うこと、リズムに合わせて踊ることが大好きな2年生。音楽の授業では、今月の歌やリクエストコーナー（歌集から1, 2曲選んで歌う）で、たくさん曲を歌い、中でも「かもつれっしゃ」「ロンドンばし」「ずいずい ずっころばし」などの遊び歌が大人気である。リズムにのってとても楽しそうな笑顔で歌ったり踊ったりしている。2年生になってから、今月の歌やリクエストコーナーも含めて、「歌う」ことについては、大きな口を開けて元気よく歌うだけでなく、楽譜をよく見て音の高さやリズムに注意したり、歌詞の意味や曲の様子を思い浮かべながら歌ったりする姿など、少しずつ変化が見られるようになってきた。

「かっこう」を学習した際、楽譜を見て似ている小節を見つけたり、音は同じでもリズムが違うところを発見したりした子どもがいた。また、鍵盤ハーモニカで練習し、みんなで合わせたときに、「最初のソミのところは、歌のときにはねた感じで『かっこう』って歌ったから、ソーミーって伸ばしたら変だと思うよ。」と、まわりの音をよく聴き、曲の様子をしっかりとつかみ、より良い表現になるように工夫していることがよく分かった。

このように、2年生になった子どもたちは、ただ楽しく歌うだけではなく、楽譜に興味をもち、曲の様子を思い浮かべて表現することができるようになってきている。本題材では、学級全体で共通のイメージをもち、そのイメージに合う表現をめざして、子どもたちの感性を育てていきたいと考えている。

#### (2) 本題材の目標や内容と音楽科で考える思考力・判断力・表現力の育成との関わりについて

本題材では、曲に対する自分たちのイメージをしっかりともち、自分たちの決めたテーマに向かって、考えたことを言葉だけではなく、気づいたことを表現しながら伝え合い、歌唱表現を高めていくことをねらいとする。

かえるの合唱（ドイツ民謡）は、8小節からなる短い曲である。短く歌いやすく幼児期からよく耳にしているため馴染み深い曲である。合唱に加え、初めての輪唱にも挑戦していくため、よく知っている曲で無理なく学習を進めていきたい。よく知っている曲であっても、輪唱の際は音が取りにくかったり、リズムが分からなくなったりするため、この学習を通して音程感覚やリズム感覚も身につくようにしていきたい。また、中学年、高学年での2部合唱の学習に向けて、音の重なりも意識できるようにしたい。

#### (3) 11年間で育てる思考力・判断力・表現力の育成に関する学び合う場面の構想について

本題材での学び合う場面において、自分の考えを発表する際は、言葉だけではなく、実際に歌いながら自分の表現したいことを伝えることができるようにしたい。そして、一人でも堂々と歌うことのできる子どもたちを育てていきたいと考える。学び合いとしては、自分たちで考えたかえるさんの気持ちから、どのような歌にしたいのか意見を出し合い、クラスのテーマを決める活動と、テーマに向かって実際に歌ったり、自分たちの録音を聴いたりしながら曲作りをしていく活動を取り上げる。学び合う場面では、学級全体で一つのテーマや歌のイメージを深めていくことにした。

学び合いが深まるための工夫として、自分たちの歌を録音して聴くことで、客観的に自分たちの歌声を聴くことができるようにした。録音は、毎回授業の最後に行って、次の授業で聴き、みんなで改善点や良くなった点を出し合い、練習に生かせるようにする。録音することで、学級全体として、歌声がどう変化したのかを評価する際にも活用していく。次に、子どもたちが何に注目しているのかを毎回の授業でとらえ、焦点化することにした。練習を重ねるごとに、子どもたちの意識は変化していくため、子どもたちに合わせ、注目する事柄も変化させていく。また、学級全体での学び合いが深まるための準備として、個の活動（かえるさんの気持ちを考える）に十分な時間をとるようにする。

## 2 題材計画

次	主な学習	時	具体的な学習・内容（◇印は、学級全体の学び合いの場面）
1	かえるの合唱を歌ってみよう	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・階名で歌ったり、リズム練習をしたりする。</li> <li>・教科書の挿絵を参考にしたり、自分で想像したりしながら、かえるさんはどんな気持ち（様子）で歌っているのかを考えて発表する。</li> </ul>
2	「わくわく たのしい かえるの合唱」をめざして練習しよう	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分たちで考えたかえるさんの気持ちから、どんな風に歌いたいのかを出し合い、クラス全体のテーマを決める。</li> <li>・歌ってみて気づいたことを伝え合いながら練習をする。</li> </ul>
		3・4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌ったり、自分たちの録音を聴いたりしながら、めあてに向かって練習する。</li> <li>◇気づいたことを伝えあいながら、表現を高めていくことができる。</li> </ul>
		5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までの録音を聴いて、自分たちの歌がどんな風にレベルアップしたのかを確認し、歌う。</li> </ul>

## 3 学び合いによる思考力・判断力・表現力の評価

授業の様子や子どもたちの発言、学び合いでの変化を記録したり、毎時間、授業の最後に合唱や輪唱での歌を録音したりすることで、個や学級全体としての変容をとらえ評価できるようにした。また、ワークシートやふりかえりも活用し評価した。ふりかえりは、文章記述だけではなく、その時間の自己評価として、丸の大きさで表すことも取り入れた。また、学び合いを構想した時間については、下の評価規準によって、子どものふりかえりの記述や活動を評価した。

次	時	学習活動	学習活動における具体的な評価規準	評価資料	評価基準		
					A	B	C
2	3・4	歌ったり録音を聴いたりしながら、どこをどう直したらいいのかを考え練習する。	実際に歌ったり、録音を聴いたりしながら、声の大きさや音色、高さ、リズムなどの直す事柄を具体的に見つけ、表現している。	発言・歌 ふりかえり	テーマに向かって、自分の意見を発表し、音程や声、リズムに注意しながら歌っている。	テーマに向かって、音程や声、リズムに注意しながら歌っている。	テーマに向かって、自分の考えをもって歌っていない。

## 4 授業の実際

### (1) かえるさんは、どんな気持ち（様子）で歌っているのかな？想像してみよう

第1時には、階名唱で歌ったり、リズム練習をしたりした後に合唱と輪唱の両方に挑戦して歌ってみた。馴染み深い曲であるため、子どもたちは歌詞もメロディーも覚えており、リズムにのってとても楽しそうに歌っていた。何度か歌った後、よりイメージをもって、みんなで気持ちを合わせて歌うことができるように、かえるさんはどんな気持ち（様子）で歌っているのかを想像し、ワークシートに記入した。以下は子どもたちが想像したものである。（複数回答あり）

- |                    |               |                |
|--------------------|---------------|----------------|
| ・楽しそうに、嬉しそうに … 26人 | ・元気に … 5人     | ・大きな口（声）で … 5人 |
| ・おどりながら … 6人       | ・リズムにのって … 3人 | ・きれいな声で … 2人   |

など

子どもたちが想像したことの多くは、「楽しそう」「嬉しそう」という様子についてであったが、中には、「リズムにのって」「きれいな声で」など、リズムや声に注目している子どももいた。想像したこと

をもとに意見を出し合い、自分たちはどんな歌にしていきたいのかを、次の時間に話し合うことにした。

## (2) クラスのテーマを決めて、表現を高めよう。

第1時で出合ったかえるさんの気持ち（様子）から、第2時では、自分たちはどんな風に歌いたいのかを考えることにした。「めざせ！！○○○かえるの合唱」の○○○の部分子どもたちが考えることにし、いくつかの案から子どもたちで話し合い、最終的に「めざせ！！わくわく たのしい かえるの合唱」と決まった。

めあてが決まったところで、一度歌い、歌い終わったあとに、自分たちの歌について話し合う時間を設けた。

T : どうだった？

児童 : 全然だめー。

T : 全然だめ？何がだめなの？「わくわく たのしい かえるの合唱」になった？

児童 : まだ、まだー。

T : じゃあ、もっとこうしたらいいってことはある？

児童A : 低い声で歌っている人がいるから、低い声と高い声の間くらいがいい。

T : 声のことを言ってくれたけど、声のことでもっとこうしたらいいってものがある？

児童B : 輪唱のときにそろってない。

児童 : 同じです。

T : そろってないのは、声？リズム？

児童B : どっちも。

児童C : 1, 2列目さん（輪唱の後から歌うグループ）が、もう少し大きな声で、大きな声で言っても、そんなにいっぱい大きな声じゃなくていいから、かるく。

T : こんな声はだめってものはある？

児童C : う〜ん。（悩む）

児童B : 大声はだめ！ぜったいだめ！

児童 : あー！！（みんなで大声を出す。）

T : 他にはある？

児童D : リズムがそろおうようにする。リズムがそろうには・・・♪「かーえーるーのーうーたーがー」って、ゆっくり歌う。

T : それでばっちり？

児童D : これをもう少し大きな声で。

児童 : やってみてー！

児童D : ♪「かえるのうたがきこえてくるよ クワクワクワクワ ケロケロケロケロ クワクワクワ。」

この話し合いでは、改善点については様々な視点での気づきが出ると予想されたので、話し合いの視点が広がりすぎないように、下線部のように、はじめに出た「声」についての気づきを子どもたちに求める声かけをした。そうしたことで、「声の大きさ」「音色」「高さ」「バランス」など、自分たちの歌声を聴いて、多くのことに気づくことができた。児童Cは、輪唱についての発言をしており、早い段階から声の重なりを意識することができている。

また、児童Dは、自然と歌いながら自分の気づきを伝えようとしている。他の子どもたちも、児童Dが実際に歌いながら表現したことに対し、拍手を送る様子が見られた。このように、音楽科では、低学年の段階で、一人でも堂々と歌うことができる子どもを育てていきたいと考えている。そして、学び合いの場面においても、言葉だけではなく、歌う（演奏する）ことを交えながら、学び合いが深まるようにしていきたい。

### (3) 自分たちの録音を聴いて、レベルアップできるように練習しよう

#### ①リズム練習と階名唱

第3時では、まだ、めあてを意識せずに歌った第2時の授業での録音を最初に聴いてみた。自分たちの歌声を客観的に聴く（見る）ことは、校内音楽会の様子をビデオで見ていることをしているので初めてではないが、映像はなく、純粋に「歌声」だけを意識して聴くことは初めてであり、はじめは、恥ずかしがったり、驚いたりしている様子であったが、そのうち静かに目を閉じてじっくりと聴く様子が見られた。以下は、録音を聴いた後の授業の様子の一部である。

T : 初めて聴いた歌声はどうだった？
児童E : そろってなかったー。声の大きさも。
児童F : 最初のグループが聞こえなかったー。
児童 : そうかも。
T : 声の大きさのバランスね。
児童G : 赤ちゃんっぽい声だから、もっときれいな声で。
児童A : 後のグループはちょっと大きくて、前のグループが聞こえなかったし、ふつうの音程から脱線している人がいた。
T : どうしたらいいかな。
児童C : 歌「きこえてくるよ。」からへん。
T : 後から出てくる人は、むずかしそうだね。じゃあ、今までリズムと音程のことがたくさん出てきたから、リズムと音程の練習をしてみよう！

子どもたちは、録音を聴くことで、今までよりも自分や友だちの歌声に興味をもって歌ったり聴いたりするようになった。また、録音を聴くことで、より細かなところまで気づくことができていることが分かる。録音は、斉唱と輪唱の両方を聴いたため、リズムを合わせたり音程を合わせたりなど、斉唱できていることが輪唱になると、急に難しくなるということが分かったため、この時間は輪唱に注目した発言が多く出た。子どもの気づきとして、2つのグループの声の大きさのバランスや、後から歌うグループの出だしのタイミングや音程がとくに多くあった。そこで、もっと良くなるために「リズム練習」と「階名唱」という方法があることを教師から提示し練習する時間を設けた。気づきや工夫をどれだけ言葉で説明できたとしても、歌声として表現が良くなっていなければ、子どもたちに歌う力がついたとは言えない。この時間では、リズムと音程が身に付き、一人ひとりが自信をもって歌うことができるように何度も練習した。

#### ②輪唱のレベルアップ

第2時のふりかえりに、「息が合っていないかった」「録音を聴いて、そろっていないことがはっきり分かった」「大きな声で音程を取る」という気づきが多いように、練習を重ねるごとに、子どもたちはどうしたら輪唱がきれいに聴こえるようになるのかということに少しずつ意識を向けるようになっていた。

第4時では、2つのグループが向かい合うように並び方を変え、お互いのグループの表情や姿勢などの様子がよく分かり、より意識して歌うことができるようにした。また、この時間は、子どもたちがたくさん歌えるように、「話し合い・歌う」というサイクルを5回ほど授業の中で行った。1サイクル目では、はじめに録音を聴き、音程やリズムに加え、新たに、歌詞がよく聴こえないということを指摘したり、今月の歌など音域の高い曲ではきれいな声が出ているのに、かえるの合唱になると、なぜきれいな声が出ないのかということ疑問に思ったりする子どももいた。その他の発言からも、「高い声で歌うといい」という意見が出ており、多くの子どもたちが、「声」を意識していることが分かった。（子どもたちのいう「高い声」というのは、「響きのある声＝きれいな声」である。）

声に気をつけて歌ってみようと声がけをし、2サイクル目に入ることにした。以下は、2サイクル目以降の様子の一部である。

T : どうだった？

児童：まだ、まだ。

児童E：予想以上に、声がよくなった。

児童C：声はよくなったけど、ちょっとねばねばしてた。

T : 「わくわく たのしい」から遠ざかっちゃった？

児童E：あーなかった。

児童：ただ歌ってるって感じ。

児童：すごく意識してるって感じ。

T : 難しいね。きれいな声はよくなった？

児童：「きれい」は良くなったけど・・・「楽しい」がない。

児童B：合唱はけっこうよくできたけど、輪唱の時はタイミングがあってないし、わくわく たのしいになってない。

T : タイミングって出たから、Bグループさんは出だしのタイミングに気をつけて歌ってみよう。

児童：「き」のときの「か」ね。

(歌う)

児童：やっぱり意識しちゃうなー。

児童：音程が高すぎたな。

T : A, Bグループ別々に歌ってみよう。

(グループごとに歌う)

T : どう？

児童H：さみしいな。遊んでる気持ちで歌ったら？

児童I：心の中で遊んでいる気持ちで、きれいな声を出す。



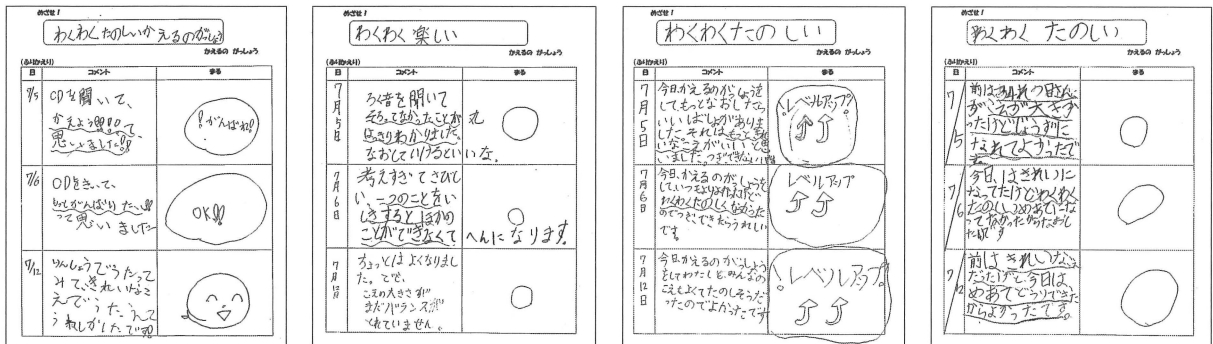
練習も2時間目を迎え、子どもたちの意識は、「音程」「リズム」に絞られてきた。第2時で多くの子どもが意識していた「音色」については、自分たちの目指すものになってきたが、「音程」「リズム」については、まだまだ直したいという思いがあった。とくに、「音程」は難しいようであった。そこで、グループごとに分かれて歌い、音程の確認をしたり、それぞれのグループの歌を聴いてアドバイスしたりする活動を取り入れた。少しずつ自分たちの目指すものに近づいたところで、子どもたちは、はじめに自分たちで決めたテーマのことを思い出し、音程やリズムを意識することで、「わくわく たのしい」感じになっていないことに気づいた。そこで、この時間の後半では、子どもたちの目指す「きれいな声」で「わくわく たのしい」歌にするには、どうしたらいいのかを考えながら進めた。子どもたちから出た方法は、遊んでいる気持ちで歌う、踊りながら歌う、揺れながら歌うの3つの意見が出た。この意見を取り入れながら歌ってみると、子どもたちの表情がとてもよくなり、声も明るくなった。表情のよい子どもを教師から紹介したり、自分のパートをよく聞きながら歌うことを声がけしたりしながら練習し自分たちのテーマに近づけていった。以下は、この時間の子どもたちのふりかえりである。

- 今日、声をなおせてよかったし、リズムがあってよかったです。
- 今日はきのうより、じょうずにできてよかったです。
- もうちょっとあそんでいるように、大きな声でうたうといいです。
- きれいになったけど、わくわくたのしいになってなかったからなおしたいです。

#### (4) どのくらいレベルアップしたかな？確認してみよう！

第5時には、今まで歌った3回の録音を聴き、自分たちの歌がどのくらいレベルアップして、「わくわく たのしい かえるのがしょう」になったのかを確認する時間となった。どの時間の歌声も全く違うもので、子どもたちは自分たちの変化に驚いていた。満足している部分もあれば、まだ直してい

たい部分もあり、「輪唱って難しいなあ。」と感想を述べている子どもが多くいた。しかし、今回の授業では、自分たちもテーマを意識しながら、具体的に何を気をつけたらよいかに気づくことができたり、「もっとよくしたい」という思いをもちながら、積極的に歌ったり話し合ったりしていた。ふりかえりとして取り入れた、図形（丸）での自己評価では、自分の思いや成長を感じやすくなり、次の時間への意欲にもつながった。第5時の授業の最後には、かえるの合唱を歌い、ふりかえりを行った。まだまだがんばりたいという子どもや満足している子どもとそれぞれであったが、思いをもって歌うということの楽しさを感じることができたのではないかと考える。以下は、子どものふりかえり用紙の一部である。



## 5 成果と課題

### (1) 学び合いの場面について

本題材では、自分たちのテーマに向かって歌を作り上げていく活動を学び合いの場面とした。その際に、自分たちの演奏の録音を聴いて、気づいたことを伝え合いながら進めていった。録音を用いたことで、子どもたちは、「聴く」ということに集中し、気づきも具体的なものが多くなり、学び合いを深めることができた。時間ごとの変化や成長が記録として残るため、自分たちの変化や成長を確認することができ、「もっとよくしたい」という意欲にもつながったと考える。また、歌いながら学び合いを深めることを目指しながら行い、特に第4時では、「話し合う（気づきを言葉で伝える）・歌う（すぐに実践する）」というサイクルになるように進めた。これにより、部分的な焦点を絞った練習をすることになり、音楽の基礎的な力も身につくことにつながった。しかし、子どもたちが活動に夢中になるため、話し合いの時間が長くなり、歌う時間が短くならないように、教師の言葉がけが重要になってくる。

### (2) 学び合いの中での教師のはたらきかけについて

#### ①録音を行ったこと

上記にもあるが、自分たちの変化や成長を確認することができ、意欲にもつながるとも有効な手段であった。「聴く」ことに集中することができ、様々な音楽的要素に気づく力がやしなえたと考える。

#### ②音楽の基礎的な能力を育てる

音楽科における学び合いを深める上で重要になってくるものには、音楽の基礎的な能力を身につけるということがある。正しい音程で歌えるか、リズムにのって歌えるか、楽譜が読めるかなどである。そのために、学び合いの中で、「階名唱」や「リズム練習」を意図的に取り入れた。これは、子どもたちから提案するのは難しいため、教師が子どもの様子を見て活動の中に取り入れていった。これにより、困ったときには、どうすれば解決するのかという方法を子どもたちに学ばせることができた。活用場面をつくって定着させていくことが、今後の課題である。

#### ③ふりかえりについて

ふりかえりの仕方として、文章記述だけではなく、記号（丸）による記述も行った。その時間の自己評価として、丸の大きさで表すようにしたものである。文章でうまく気持ちを伝えることができない子どもも、自分をふりかえり、丸をかくことができた。そこで、教師がその丸の大きさの根拠を少しずつ聞くことで、自分の気持ちを伝えることができたため、とても有効であったと考える。

(文責 上代 美樹)